



川崎相談会 「昨日から何も食べていない」「解雇された」

川崎の相談会・食料支援に95人が来場

4月4日に川崎区内の公園において「相談会・食料支援」が行われました。川崎労連を中心とした実行委員会の主催で、各労働組合の組合員や民主団体の構成員など46人が支援者として参加しました。なかには、配布されたチラシを見て「何か手伝いたい」と参加を希望された方もいました。

◇高齢者も若者も

13時開始でしたが、時間前からすでに来場される方がおり、前倒して支援を開始。15時までほとんど途切れることなく95人の方が来場しました。

「1日前から何も食べていない」という痩せた高齢の女性や、家族連れ、外国人の方など様々な方が訪れました。街でよく見かけるような身なりもきちんとした青年(男性も女性も)が食料を受けとり、お礼を述べて帰っていく姿も見られました。

来場者の6割が男性、4割が女性。カップ麺は何度も買い足し、用意した食料はほぼ配布しました。

◇時給820円

相談は7件で、労働や生活、法律などの内容で、弁護士や組合役員などが相談に対応し、また制度活用などについて支援に来た日本共産党の市議員も一緒になって相談を受けました。

61歳の男性は、「高卒から働き始めた職場を2月に解雇された」と話し、退職金もなく家賃や携帯電話代を払うのも苦しい状況という相談でした。60代の生活保護を利用している男性は、「週3日働いていたが、時給820円(最賃違反)なので退職」。生活保護水準が改悪されて苦しいと訴えました。

4人家族の50代男性は、昨年コロナに感染し失業。「子どもも働いているが、低賃金で生活が苦しい」。傷病手当や生活保護の活用などについて相談しました。60代の女性は、「チェーンのソバ屋で働いていたが、券売機の収支が合わないと自腹で払われ、また暴言・暴力によって、うつ状態になり退職した」と述べ、苦しい生活の改善を求める相談を受けました。

